日本大學 農獣醫學部 校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京商工KK

58年度 学部校友会 総会と懇親会

会員多数が出席

久木田先生 現況と方針を報告

昭和五十八年度農獣医学部校友会総会が七月二十三日（土）新設の「日本大学会館」八階大会議室において、校友諸氏二百名の出席のもとで開催された。

総会は農獣同窓会長を議長に選出し、議案審議に入った。

第一号議案は十七年度校友会一般経過報告が石井事務局長より説明された。①小堀顧問前学部長、農獣医学部校友会顧問が六月十日肺ガンのため逝去された旨、哀悼の意をもって報告がなされた。②会報三十五号を発行したこと。③理事会・会報など各委員会の開催状況、とくに理事会での会費改正に関する審議など、④各分会の活動状況、⑤会員数の動向、⑥学部体育館・図書館設立委員会発足などの説明がなされた。

第二号議案は会計決算報告の件で、月瀬会計担当からの説明と山根監査からの監査報告を受けたのち、二面掲載の通り承認された。

続く第三号議案は五十八年度事業計画および会計予算案が石井事務局長から提案説明があり審議の上、二面掲載の通り満場一致承認された。以上をもって昭和五十八年度総会を終了した。続いて同会館の大ホールに会場を移して懇親会が開催された。石井事務局長の司会により、開会の辞・田口副会長、佐藤会長の挨拶にはじまり、ご来賓として日本大学・日本大学校友会・日本大学農獣医学部を代表され日本大学理事農獣医学部長の久木田賢志先生より、大学および学部の現況と今後の方針について報告を頂いた。さらに大学・学部・校友会がより一丸となって活動すべき時、なお力強いご祝辞を頂いた。

引き続き、日本大学商学部顧問・商学部校友会会長小田切松吉先生から祝辞を頂いた。農獣医学部研究担当丸尾文治先生の万才三唱と、西島羽刷会長の閉会の辞をもって十九時三十分に散会を惜しみつつ閉会となった。

なお、当懇親会会場は六百五十名収容の大ホールで、同時通訳・映写スクリーン設備などをそなえ国際会議場でもある。

大学および学部の現況と方針を報告する久木田賢志先生

大ホールでの懇親会

校友会の飛躍をめざして

農獣医学部校友会会長　佐藤弘一

今年、昭和五十八年は農学部が創立されてから四十年、校友会が発足して今年で三十五年目にあたります。

創立当初は農学科（神奈川農専専攻・帝国農業・農産製造専攻）と農業経済学科の二学科でしたが、その後学科の増設や合併等で、現在農獣医学部は十学科・一短期大学部の大世帯に発展しております。校友の総数も四万三千人によくれあがり、全国津々浦々に手を伸ばしております。校友会はさらに飛躍し大学の発展に大いに寄与致したいと念じております。

校友会の目標

校友会の目的は、会則に明示されているように、会員相互の親睦・向上を、どのような形で具体化するかということにあると思います。私は学会の方法は、基本的には、①会報の定期発行、②名簿の整備・発行、③総会の充実、の三点を忠実に実行することにあると思います。①の会報の定期発行については、会員相互の情報・情報交換と学部と校友をつなぐ絆として必要な情報誌です。これの充実はなにかも増して大切なことですので、今年から回数を倍増して、皆様のご期待に応えようと致しました。②の名簿については、昭和五十六年に最新刊を発行しましたが、事務局はじめ、各分会の皆さんの努力によって、整備され、五年に一回の割合で刊行できるよう努力しております。③の総会については、各分会の活動が非常に活発で充実しておりますので、各分会の代表の出席で、目的は達せられているのですが、分会の総会と違って範囲が広くなり、それだけに分会の会合とは違った意味合いで意義がありますので、自由に、多数のご参加を希望しております。その意味で今年の総会、懇親会は三百名におよぶ出席者を得て、非常に盛会にできましたことを誇りとするものであります。

これからの課題

以上、三点につきましては、お陰様で、定着した形で発展しているので、これからますます校友・同窓の絆をより強くする努力しなければならないと思います。

地方支部の形成

農獣医学部（農獣同窓会）などはその代表的な例です。山梨あたりも支部結成の機運が高まっていると聞いております。こういう動きを助成して、各地域の校友が集まって独自に動き出します。大阪支部・神奈川支部員数が増えるばかりでなく

学部祭は東京と藤沢校舎で開催

今年の学部祭は、東京校舎（三茶祭）で、十月二十二日（土）より二十四日（月）までの三日間と、藤沢校舎（藤桜祭）で、十一月二日（水）、三日（祭）の二日間開催されます。

統一テーマは「海が好き」と決まり、学部祭実行委では盛り沢山の企画を立てております。

校友諸兄のご来校を心からお待ちしております。

目立つ エレクトロニクス 関連職種

大卒者は昨年より採用増加

出足が早い就職戦線

今年度の就職状況は、マスコミの報道によると、高校生については、昨年度同様に、厳しいようであるが、大学生にとっては、若干緩やかな状況である。

また、経済界の一般からみると今もって不況を脱し得ないようであるが、大卒が昨年度よりも若干ながら、採用増加をみているのは、今春の採用域の反動もさることながら、目立つのは、エレクトロニクス、バイオテクノロジーの発達に伴う人材需要など、特に、エレクトロニクス関連職種の採用意欲が旺盛なことである。

このような中で、学生は年々早まる就職戦線に対応して、夏休み期間中は、各企業の実情を調査すべく、学部就職資料室の利用が多かった。

昨年度の求人件数も、前年より六百三十五件多い、六千二十四件で、内訳は、従業員五〇〇人以上の大企業一、一三二社、一〇〇人～五〇〇人の中小企業二、八七四社、一〇〇人以下の小企業一、七三六社から求人があり、それと公務員二百八十二件であった。

このような状況で、折角、学部学生のため、校友を含む多くの企業から求人を賜わり、また、学部まで わざわざお出掛け頂いた企業等に対して、紙面を借りて、感謝申し上げるとともに、ご期待に添えなかった企業に対しては、衷心よりお詫び申し上げる次第である。

最近3年間の就職状況

産業別＼年度		55	56	57	計	%
A 農業		29 (7)	14 (1)	9 (1)	52 (9)	2 (3)
B 林業 他		3	6	1	10	
C 漁業 他		2	1	1	4	
D 鉱業		1			1	
E 建設業		87 (2)	78 (6)	59 (3)	224 (11)	6 (4)
F 製造業	1. 食料品他	219 (18)	186 (11)	179 (12)	584 (41)	15 (13)
	2. 繊維					
	3. 衣服 他	1	6	5	12	
	4. 出版	11	10 (1)	16 (2)	37 (3)	
	5. 化学	62 (12)	59 (8)	58 (7)	179 (27)	5 (9)
	6. 石油製品					
	7. 鉄鋼	1	1		2	
	8. 非鉄金属	2	1		3	
	9. 金属製品	4	3	3	10	
	10. 一般機械	7	8	4 (1)	19 (1)	
	11. 電気機械	5	9 (2)	6 (1)	20 (3)	
	12. 輸送機械	4	5	5 (1)	14 (1)	
	13. 精密機械	11	3 (2)	8 (1)	22 (3)	
	14. その他	27 (1)	27	37 (1)	91 (2)	3 (1)
G 卸売小売業	1. 卸売	216 (5)	184 (6)	160 (7)	567 (18)	15 (6)
	2. 小売	158 (10)	126 (11)	121 (8)	405 (29)	11 (9)
	3. 自動車	24 (2)	9 (1)	15	48 (3)	
H 金融保険業	1. 銀行、他	1 (1)	1 (1)	8	10 (2)	
	2. 証券	4	5 (2)	6 (1)	15 (3)	
	3. 保険	13	6	5 (1)	24 (1)	
	4. その他	18 (1)	9	9	36 (1)	
	5. 商品取引	6	5	7	18	
I 不動産		5 (1)	14	14 (1)	33 (2)	
J 運輸通信	1. 運輸	22 (2)	10	11	43 (2)	
	2. 通信					
K 電気、他		2 (1)		3	5 (1)	
L サービス業	1. 医療	12 (4)	22 (10)	28 (11)	62 (25)	2 (8)
	2. 法務					
	3. 教育(私立)	16 (10)	18 (12)	39 (20)	73 (42)	2 (13)
	4. 宗教		1	1	2	
	5. 非営利	18 (2)	11 (1)	14	39 (3)	
	6. 興業、他	21 (3)	21	20 (1)	62 (4)	2 (1)
	7. 旅館	3	1	8	19	
	8. 広告	1	6			
	9. その他	150 (15)	170 (21)	159 (19)	479 (55)	13 (17)
M 公務	1. 国家	11 (1)	15 (2)			
	2. 地方	114 (7)	88 (1)	108 (2)	355 (17)	9 (6)
	3. 教育(国公立)	9 (3)	10			
N 上記以外						
O 自営		132 (12)	106 (9)	136 (2)	374 (23)	10 (7)
合計		1,426 (126)	1,255 (108)	1,272 (103)	3,953 (332)	

（　）内は女子

第31回紫会に出席した人たち

懐旧談に花が咲く

農学部第1期生同窓会

福岡、山口からも出席

五月二十日午後6時から、農学部第一期卒業生の同窓会が新宿の京王プラザホテルで開かれた。今年は、昭和二十八年に入学してから丁度四十年、卒業してから三十五年目に当る記念すべき年である故か、遠く福岡、山口からも、また予科から医学部や工学部に転学した人たちも集まって、二十五名（卒業生二〇名名、内死亡十四名）が参加し、懐旧談や先生方の授業時のエピソードなども飛び出し、楽しいひと時を過した。

学部からは久木田学部長先生が出席されたが、他に先生方は、調川和夫先生お一人の参加とさびしい思いであった。五年前の同窓会には八名の先生方の参加をいただいたが、高齢や病気のために次席される先生が多く、ご健康と長寿をお祈りして、次回は一人でも多く参加をいただけるよう お願いしたい。

京王プラザホテルで開かれた農学部第1期同窓会に出席した人たち

31回紫会を開催

赤坂東急ホテルで

昭和58年1月22日（土）午後六時から、赤坂 東急ホテル 鈴の間で、第31回（会長・鹿井昭三 農化卒）紫会を開催した。まずはじめに、藤井会長が挨拶、一層紫会の発展をはかろうと力説し、ついで、茂沢 昇 事務局長より、昨年、新宿ホテルセンチュリーハイアットでおこわれ、盛会だった紫会結成30周年記念大会の感謝報告・在京地方会員消息がなされ、直ちに宴会に入った。会席のもと出席会員それぞれがゆったりとくつろいで「紫陵讃歌」の吾唱、万才三唱後、予定 時間をはるかに超え、次回を約して閉会した。

なお、第32回（会長・弘重 春一 畜産卒）紫会は、昭和59年1月28日（土）午後6時から、想い出多き鎌倉は由比ヶ浜の「ハーフムーンビーチホテル」での開催が決定した。いずれも紫会事務局よりの会員に案内がとどくので、多数の出席を切望している。

会報の改善など着手

事務局からのお知らせ

昭和五十八年度校友会総会が七月二十三日（土）、日本大学会館において会員多数のご出席を頂き、多岐にわたる議のご承認を得て終了することが出来ました。出席者の中には、遠方より駆け参じて下さった方もおり、事務局と致しましても心から感謝申し上げる次第です。

一本年は農獣医学部の発祥ともいうべき農学部が、藤沢市に設立されて以来四十年を迎えるに至りました。この間の一部農業が現在の学部を築き、その発展の経緯を考えるとき歴史の重さを痛感致します。

藤沢校舎の近況についてふれてみますと、農学、畜産、農業工学の三学科は東京校舎から藤沢校舎に移り、この三月に初めての卒業生を社会に送り出しました。また獣医学科は六年制となり、これまた大学院前期課程の院生諸君が同じく藤沢校舎で日夜勉学に勤めております。さらに設備関係では、六・七号館などの研究棟の完成はもとより、付属研究設備等もその充実を計るべく一層の努力がなされております。

一方、校友会の活動も会員各位の ご支援と協力により、年一年と に盛んとなって参りました。校友会は回を重ねる毎に、会員諸兄のご賛成と母校の発展に寄与することは勿論のこと、会員相互の親睦を計ることを主目的としております。そのためには、学部校友会・各科分会等が円滑に運営される必要があります。幸い本年より人会金の改正をご承認頂きましたので これに相応すべく事業計画を立案し併せてご承認を頂きました。

そこで早速一連の事業計画の中より、会報の改善に着手致しました。本号より従来の四頁から八頁とし、各科分会の記事を出来るだけ豊富にすることに努めました。内容としてはまだ不十分と思われますが、次号より多くの会員諸兄から近況や消息状況などをご一報頂ければ、より一層充実した紙面をお届け出来るものと期待しております。

おわりに事務局と致しましては今後の運営にありましても各委員会・理事会等で十二分に検討し実行していく所存でございます。

農獣医学部校友会事務局

昭和57年度　日本大学農獣医学部校友会会計決算報告書

(収入の部)　　事務局長 石井賢治

科目	予算	決算	増△減	備考
(1) 前年度繰越金	1,250,868	1,250,868	0	
(2) 入会金	9,675,000	9,675,000	0	
(1) 昭和57年度入学	9,380,000	9,380,000	0	＊3,000×1876
(2) 昭和56年度入学	190,000	190,000	0	＊5,000×38
(3) 昭和55年度入学	5,000	5,000	0	＊5,000×1
(4) 昭和54年度入学	80,000	80,000	0	＊5,000×17
(5) 昭和50年度入学	15,000	15,000	0	＊2,000×1　＊1,000×13
(3) 預金利子	350,000	1,329,802	979,802	
(4) その他雑収入	0	34,000	34,000	
収入合計	11,275,868	12,280,670	1,013,802	

(支出の部)

科目	予算	決算	増△減	備考
(1) 分会交付金	5,807,000	5,807,000	0	
(1) 昭和57年度入学	5,628,000	5,628,000	0	＊3,000×1876
(2) 昭和56年度入学	114,000	114,000	0	＊3,000×38
(3) 昭和55年度入学	3,000	3,000	0	＊3,000×1
(4) 昭和54年度入学	51,000	51,000	0	＊3,000×17
(5) 昭和50年度入学	11,000	11,000	0	＊1,000×8　＊500×6
(2) 紫会費	3,350,000	3,226,425	△123,575	
(1) 人件費	1,500,000	1,332,000	△168,000	
(2) 本部分担金	200,000	200,000	0	
(3) 事務局運営費	300,000	257,115	△ 2,885	
(4) 通信費	300,000	150,640	△149,360	
(5) 会合費	800,000	1,041,650	241,650	
(6) 交際費	250,000	201,020	△ 48,980	
(3) 事業費	1,700,000	1,534,530	△165,470	
(1) 名簿作成補之金	1,000,000	1,000,000	0	
(2) 会報費	500,000	436,900	△ 63,100	
(3) 会報委員会運営費	100,000	77,630	△ 22,370	
(4) 名簿委員会運営費	100,000	0	△100,000	
(4) 子備費	158,868	40,000	△ 118,868	
(5) 予備費	158,868	10,000	△ 148,868	
支出合計	11,275,868	10,587,955	△ 687,913	
次年度繰越金		1,691,715		

名簿積立金 6,239,340（東銀行定期）　積立金(基金) 8,762,800（長期神戸銀行定期）

監査の結果適正に処理されていることを認めます。

昭和58年6月11日　監事 山根勝次郎　戸崎紘一郎　坂野忠雄

昭和58年度　日本大学農獣医学部校友会会計予算

(収入の部)　　事務局長 石井賢治

科目	昭和58年度	昭和57年度	増△減	備考
(1) 前年度繰越金	1,691,715	1,250,868	440,847	
(2) 入会金	19,780,000	9,675,000	10,105,000	
(1) 昭和58年度入学	19,770,000	0	19,770,000	＊10,000×1977
(2) 昭和57年度入学	9,380,000	9,380,000	0	＊5,000×1876
(3) 昭和56年度入学	190,000	190,000	0	＊5,000×38
(4) 昭和55年度入学	10,000	5,000	5,000	＊5,000×2
(5) 昭和54年度入学	75,000	0	75,000	＊5,000×15
(6) 昭和53年度入学	0	85,000	85,000	
(7) 昭和51年度入学	5,000	0	5,000	＊5,000×1
(8) 昭和50年度入学	5,000	11,000	6,000	＊3,000×1　＊2,000×2
(9) 昭和38年度大学院	10,000	0	10,000	＊10,000×1
(3) 預金利子	800,000	350,000	450,000	
(4) その他雑収入	0	0	0	
収入合計	22,281,715	11,275,868	11,005,847	

(支出の部)

科目	昭和58年度	昭和57年度	増△減	備考
(1) 分会交付金	9,941,000	5,807,000	4,134,000	
(1) 昭和58年度入学	9,635,000	0	9,635,000	＊5,000×1927
(2) 昭和57年度入学	140,000	5,628,000	5,139,000	＊3,000×46
(3) 昭和56年度入学	21,000	114,000	93,000	＊3,000×38
(4) 昭和55年度入学	36,000	3,000	33,000	＊3,000×12
(5) 昭和54年度入学	15,000	0	15,000	＊3,000×55
(6) 昭和53年度入学	0	51,000	51,000	＊3,000×17
(7) 昭和51年度入学	3,000	0	3,000	＊3,000×1
(8) 昭和50年度入学	3,000	11,000	8,000	＊2,000×1　＊1,000×2
(9) 昭和38年度大学院	3,000	0	3,000	＊3,000×1
(2) 紫会費	1,800,000	3,350,000	1,550,000	
(1) 人件費	1,000,000	1,500,000	500,000	
(2) 本部分担金	200,000	200,000	0	
(3) 事務局運営費	400,000	300,000	100,000	
(4) 通信費	1,000,000	300,000	700,000	
(5) 会合費	1,200,000	800,000	400,000	
(6) 交際費	300,000	250,000	50,000	
(3) 事業費	100,000	0	100,000	
(3) 事業費	3,300,000	1,700,000	1,600,000	
(1) 名簿補之金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	
(2) 会報費	1,000,000	500,000	500,000	
(3) 会報編集委員会運営費	150,000	100,000	50,000	
(4) 名簿編集委員会運営費	150,000	100,000	50,000	
(5) 記念事業費	500,000	0	500,000	
(6) 卒業生記念品	1,000,000	0	1,000,000	
(4) 特別事業費	1,500,000	0	1,500,000	
(4) 予備費	720,715	158,868	561,847	
支出合計	22,281,715	11,275,868	11,005,847	

積立金(基金) 8,762,800（長期神戸銀行定期）　名簿積立金 6,239,340（東銀行定期）

農獣医学部校友会役員

農獣医学部長	名誉会長	久木田賢志
理事	会長	佐藤 弘二（食経）
理事	副会長	鹿野 忠（林学）
理事		西鳥羽 曜（農学）
理事		白山 巌（畜産）
理事		高橋文次郎（農学）
理事		宮浦 敏麿（農学）
理事		茂沢 昇（農化）
理事		江刺 琢磨（農化）
理事		本嶋 弘倫（農化）
理事		山田 民雄（獣医）
理事		長尾 壮七（獣医）
理事		佐藤 昌介（畜産）
理事		桐林 幾生（畜産）
理事		三木 敏夫（食経）
理事		高坂 鉄雄（食経）
理事		上野 嘉昭（林学）
理事		大川富士雄（林学）
理事		柴山左武郎（水産）
理事		竹内 均（水産）
理事		加藤 公睦（水産）
理事		八木 茂（農工）
理事		一川 宏也（農工）
理事		世良田和寛（農工）
理事		中村 清一（食工）
理事		野田 義人（食工）
理事		青井 幸雄（食工）
理事		庄川 洋一（拓植）
理事		北川 休（拓植）
理事		岡田 正男（拓植）
理事		田村 信雄（短農）
理事		山本 正義（短農）
理事		鈴木 明夫（短農）
監事		山根 勝次（食経）
監事		戸崎 紘一（農工）
監事		坂野 忠（食工）
事務局長		石井 賢治（農学）
庶務		山口 照雄（食経）
庶務		木村 貞司（畜産）
会計		月瀬 東（獣医）

農学分会

30周年で 記念祝賀会など 盛大に多彩な行事を計画

本年は農学校友会発足三十年に当たる記念すべき年にあたります。この記念すべき年にたって、記念誌「三十年のあゆみ」の発行、記念樹の植樹（桐和・たのき）、設立三十年の記念祝賀会（十月九日）お去年の席での祝賀、江口同窓生への感謝状・記念品贈呈など、皆のたくさんに計画されております。校友諸兄姉の多数の参加を得て盛大に記念行事を行いたいと思います。次に事務局からの知らせと席年からの一年間のニュースをお届けします。

▼総会に代る幹事会開催

本年度（昭和五十七年度）の総会（昭和五十七年十月二十八日に藤沢校舎第一会議室で開かれ、高橋文郎学長主任、前主任の佐々木康教授および西羽・関校友出席）を初め、小林久幸教論（新潟県立柏崎農高・五期）、小島博教論（埼玉県立熊谷農高・一期）、古川仁朗教論（神奈川県立平塚農高・三十期）、信太・馨教論（神奈川県立中里農高・二十期）、小林好次教論（福島県立会津城農高・三十二期）、小林好次教論（福島県立会津城農高・三十二期）、小林好次教論（福島県立会津城農高・三十二期）、藤沢昭二教論（静岡県立相良農高・三十二期）、八井宏文教論（山梨県立山梨園芸高・三十四期）、塚隆之教論（茨城県立玉造農高・三十四期）、加瀬・清教論（千葉県立神高・三十六期）および野長人教論（栃木県立山高農高・三十七期）らによる、現職の立場から多くの"なまの"建設的意見が出されました。

TVK（テレビ神奈川）やNHKの番組を録画、七日間にわたって授業に活用して来た学生を基にまとめた論文で、全国から六十四編の応募があったが、審査員全員一致の推せんによって受賞され、誠に同慶に堪えません。ますますのご活躍を祈念致します。

藤沢校舎 会議室で 農学科桜師会を開催

農学科の桜師会（農学科出身で各都道府県の農業高校の現役教師の会）が去る七月二十日（土）に藤沢校舎第一会議室で開かれ、高橋文郎学長主任、前主任の佐々木康教授および西羽・関校友会長の挨拶に続いて、石井賢治教授の司会による懇談会に入り、立中央農高・十期）、佐藤秀義教論（福島県立磐城農高・五期）、三浦孝太郎教論（青森県立三本木農高・十三期）、小川信也教論（石川県立能登高・二十三期）、塚島信一郎教論（千葉県立山武農高・二十四期）、斗沢栄一教論（青森県立三本木農高・二十五期）、伊藤庸夫教論（東京都立農林高・三十六期）、森谷勝司教論（新潟県立柏崎農高・五期）、小島（静岡県立静岡農高・二十九期）、木村滋夫教論（愛媛県立西条農高・三十期）、佐藤栄一教論（青森県立三本木農高・二十期）、伊藤庸夫教論（東京都立農林高・三十六期）、森谷勝司教論（新潟県立柏崎農高・五期）、小島（静岡県立静岡農高・二十九期）、木村滋夫教論（愛媛県立西条農高・三十期）、佐藤栄一教論（青森県立三本木農高・二十五

角笛会

新制六学二十九期、四年制最後の卒業生が巣立ってから、早くも一年半が過ぎました。会員の皆様にいますますご活躍の一段と存じます。

獣医師法改正による、いわゆる修士積み上げの大学制最初の学生諸君も、あと半年後に迫った獣医師国家試験、卒業にむけ最後の追い込みに入るところです。

今年はじめて六学年の学生が揃いました。学生定員七〇名となり、農獣医学部で最も先進的の多い学科となりました。

今年月「学校教育法の一部を改正する法案」が国会を通りました。それに合わせて獣医学科においても新しいカリキュラムを作りあげました。これは五月二十六日の教授会において「獣医学科の六年一貫教育に伴う学則案について」としてご審議願き、日本大学本部の学部を経て文部省に申請いたしました。その後七月十五日の学部長会議にて、文部省から認可があった旨の報告がありました。これで昭和五九年の新入生からは学部六年制となります。

学科内の人事異動と施設の充実

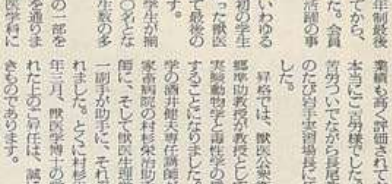
永井角笛会のお世話をして下さいました大熊俊一先生が、本年一月定年で日本大学を退職されました。

現在は国際学院幼児期大学副学長として活躍しておられます。

そして、ご苦労様でしたとの名誉教授の称号が贈られることになりました。おめでとうございます。十二月四日、京王プラザホテルにお祝いの会が開かれる定です。

つぎに学科主任を本年から獣医解剖学の岡野眞臣教授がやって下さることになりました。新制度の発足に伴なうカリキュラム編成、教員・施設の充実など多くの問題が山積っております。しかし的確な判断と着実に物事を進め進めて行かれる岡野新主任の人柄に、大きな期待が寄せられております。

一方、修士課程積み上げ方式による大学院生の定員増、獣医学科の獣医校舎への全面的な移転など、幾多の重要な事を事もなく乗り越って来た前任者の長尾壮七教授の



の尽力を聞いたばかりでした。

永い間のご功績により、本年六月二十八日、授位位勲三等旭日中綬章を叙勲されました。ご賀福をお祈り申し上げます。

施設については、本年の懸案であった小動物診療室と実験動物舎の建設が決定しました。細部については現在鋭意中です。二階建で、床面積が約八四四平方メートル、これを獣医学科と応用学科が仲良く半分ずつ分けることになります。教員も学生も気持ないように、勉強しなければならません。

模擬試験の問題作成に今から頭を悩めております。本学の試験の成績は恐るべきマンナカなようです。なお、試験科目は、家解剖学、家畜生理学、家畜代謝化学、家畜繁殖学、家畜病理学、家畜微生物学、家畜伝染病学、獣医公衆衛生学、家畜内科学、生殖（産）学、家畜外科学、家畜臨床繁殖学、魚病学、家畜衛生学、家畜毒物学、獣医放射線学の十七科目です。

角笛会としては、昨年四月二十六日に岡田博会長を失い、会長空席のまま今日に及んでおります。会としては総会を開催して、新会長を選出することが急務とされております。

ご存知の通り大熊俊一前会長（校友会理事）が母校を定年退職されました。後任の選挙が本年三月十九日に学内で行われ、幸にも行なわれ、長尾壮七事務局長が選出されました。これに伴って事務局の仕事を久郷氏が引き継ぐ事となりました。よろしくご支援願います。

本年度から、学会報告のうちから学会奨励賞を授与することになりました。最初に村田先生のご研究が、この必要に迫かれたことは学会にとっても誇りとなる事です。

なお、本年新潟市で開催された学会報告に対する奨励賞は、明年度の総会で授与されることになります。聞くところによりますと、新潟県の先生方の報告が二編選ばれているそうです。今回お世話になった方々にとっても喜ばしい事と思います。

また、昨年度の学会賞を受けられた川平実先生は本年三月、日本大学より獣医学博士の学位を得られました。

昭和五十九年度の総会と学会は、東京都の指定で開催の予定です。明日は月月末頃になる頃いますが、より多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。

事務局からのお知らせ

角笛会各地方支部の総会は多くの支部で盛んに開催され、多くの会員の愛和の実を挙げておられます。

永大田賢司教授は、五月の解剖学から一個を選ぶ方式です。記述式ならばなんとか点が取れるのにという学生の声がありました。いまの試験制度は学生を選ぶ方式、普通の学生は無視されるということでしょうか。アナログならば助かるが、デジタルではバッサリという時代の流れ行方的な表現を使えば、良いことは良いが、悪い子を選ぶことで、普通の学生はお捨てのようです。ご家内を戴きたいものです。

本年七月八日には、東京角田会主催で桑原忠都夫先生の前四等旭日小綬章の叙勲祝賀の会が開催されました。青森支部からは山内善郎副理事をはじめとして、各支部からも多くの方々をお迎えし、盛大な会となりました。

この五月に満九十歳を迎えられた田中信吉先生もお元気で、去る六月に熱海で開かれた卒業生のクラス会にもお見えになり、昔話に花を咲かせておられました。

一方、悲しい事に食品工学科の斉藤義郎先生には昨年十月二十六日ご帰天されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

角笛会の会員の皆様方の支部の支部に盛んに開催され、多くの会員の愛和の実を挙げておられます。また、学会賞の受賞者の方々の報告は、ご都合のつく限りご出席願えると思います。

本年七月八日には、東京角田会主催で桑原忠都夫先生の前四等旭日小綬章の叙勲祝賀の会が開催されました。青森支部からは山内善郎副理事をはじめとして、各支部長の久田賢司教授は、角田会支部総会に積極的にご出席の希望をお持ちのようです。ご家内を戴きたいものです。

また、学部長の大熊俊一教授は、昭和十四年三月、東京帝国大学農学部を卒業後、同年四月農林省蚕糸試験場に初勤めになり、その後を経て昭和四十年十月に帝産試験場長になられ、七年余り場長として活躍されて家畜育種学の権威者です。主任になられ早速、帝産学科のカリキュラム改訂にたりて、来年度からの実施にむけて最終段階の調整に努力されております。

三十余年にわたって帝産学科のために尽力戴いた福島庄次先生（帝産製造第一研究室）は、本年三月をもって満七十歳の停年を迎えられ退職されました。先生の一方ならぬご指導と尽力に対し、深く感謝致しますとともに、末永くご健康を祈り致します。

なお、先生は九月に名誉教授になられました。先生には今年度非常勤講師として出講されております。福島教授の退職に伴い、帝産製造学第一研究室は合併し、小山忠教授の指導のもと活動されております。前報でお知らせ致しました、家畜飼養学第二研究室の森本宏先生の後任として、名古屋大学を卒業の藤田章夫先生を本年四月から教授としてお迎えします。

関する創義、栄養生理学です。ご期待下さいます。

昭和五十五年三月帝産学科卒業生の吉田慶子さんでした。大学四年間ご学んだことを生かしたいとのことで、日本のペットフードに関する創義、栄養生理学です。ご期待下さいます。

昭和五十五年三月帝産学科卒業生の吉田慶子さんでした。大学四年間ご学んだことを生かしたいとのことで、日本のペットフードに関する創義、栄養生理学です。ご期待下さいます。

紅一点は昨年三月卒業（36期）の森保昭氏は現在東京都家畜保健所所長として、活躍されております。第三期（昭和41年）の森保昭氏は現在東京都家畜保健所所長として、活躍されております。

「都市近郊の酪農について」と題して特別講演をして戴き、年後に、酪農の現状の立場からのお話をして戴きました。現在祥一氏は昭和三十一年卒業で、現在は伊藤忠プリマフロイラーの取締役として活躍されます。若い学生諸君の参考を切に願います。

（昭和41年卒）の長谷川幹男氏は曽我の屋農興の旭山養豚場の場長、木村持氏（昭和44年卒）も同じく曽我の屋農興の工場長として、それぞれ活躍されております。現在の会社の発展、業界の将来性などについて話され、意欲あるところをみせられました。

光岡敦氏（昭和47年卒）は、めいらくグループの東京めいらく社員の立場に立って活躍中で、柔道で鍛えた堂々とした体格からの自信のある行動が堂々になっています。

就職懇談会

演壇は先輩がたと座長（長野助教授）

去る月二十一日、午後一時より獣医校舎本館第一講義室において卒業生八名を迎えて盛大に開催されました。十数年振りに行われた就職懇談会には、講師としてそれぞれの職場で活躍中の大先輩から最近卒業の方まで、幅広い中から選ばれました方々です。第三期（昭和41年卒）の森保昭氏は現在東京都家畜保健所所長として、活躍されております。

昭和五十五年三月帝産学科卒業生の吉田慶子さんでした。大学四年間ご学んだことを生かしたいとのことで、日本のペットフードに関する創義、栄養生理学です。ご期待下さいます。

昭和五十五年三月帝産学科卒業生の吉田慶子さんでした。大学四年間ご学んだことを生かしたいとのことで、日本のペットフードに関する創義、栄養生理学です。ご期待下さいます。

紅一点は昨年三月卒業（36期

いもづる会

総会と懇親会

お茶の水で開催

異動や海外出張も活発化

昭和五十八年度のいもづる会総会および懇親会は、七月二日に国電御茶の水駅前の銀座アスターにおいて開催された。午後四時からの手助けをできるような体制をつくらなければならないわけで、まさにコンピューター管理を要とする情況に迄大規模化しているのである。

第二は会費報告について。昭和五十七年度の収入計額は一五三八千円で、支出額は一三〇二千円であった。そのため次年度への繰越額は三六千円となった。五十八年度会計については、収入額が二四七千円と、約百万円も入会金値上げのために増額するのであるが、支出については、学部校友会予担金が約七〇万円も増額されるため、いもづる会自身の事業支出増は三〇万円度しか反映しない。いもづる会費はこの三〇万円のうち、一五万円を積立金や特別事業費、通信費の増額のために支出するので経常的事業の増加にはあまり回らない。

第三は、遅れている三十周年記念誌に親中先生の思い出などを入れて早く発行にこぎつけようということである。

第四は、島田先生、来米先生、山根先生の三教授が大きに遅延を迎えられるので、そのために何か事業をやろうではないかということで、いもづる会内に遅延事業委員会を設置することになった。具体的な委員の選定や事業内容については後検討することになった。

その他、会員名簿発売の問題や、事務局員の増員（斉藤助手、木島助手）についての報告が行われた。

懇親会は、新しい会員ということが効奏したのか出席者も多く盛会であった。今回は、この四月から学科主任が来米先生から山根先生に代われたことと、あって、来米先生のあいさつに続いて、新任教授紹介として、今年三月に本学部を卒業された西村榮雪（食経科）さんと山口啓子（農学科）さんが採用され、続いて資料室業務を担当しておられる。

昇格人事では、安井専任講師が教授へ、下渡助手が専任講師へそれぞれ昇格された。

また、学科と直接に関係のある大学院の専攻専任者も来米先生から島田先生にバトンタッチされた。これまで十二年間もの長期にわたって食品経済学科と大学院農経学専攻課程の舵とり役としてその大任を果したことのある来米先生長ありがとう御苦労様でした。

学科の動き

前述したように、今年度は四月からの学科主任交替によって、学科内の雰囲気は幾分変化している。

食経教員の海外出張状況

近年、国民各層において海外視察が非常に多くなっているが、当学科の場合も例外ではない。

昨年七月のいもづる会以降の海外出張状況を調査した結果は以下のとおりである。

昭和五十七年

①七月～一年間　大矢助手米国留学　農業労働力、有機農業

②八月～九月　伊予助教授インドネシア　国際農業経済学会出席

③八月～九月　島崎教授、ヨーロッパ諸国　酪農経営、牛乳流通

④八月～九月　来米教授、高畑助教授、台湾　農村、農家生活

⑤八月～九月　水村専任講師、フィリピン　甘藷類の生産加工

⑥十二月～一月　下渡・斉藤助手、インド　北部の農業生産構造

⑦十二月　来米教授・木島助手、フィリピン　食品加工業

⑧十二月　水村専任講師　フィリピン　甘藷栽培指導の経済開発

昭和五十八年

①二月～三月　水村専任講師・下島助手　フィリピン　経済開発

②三月～一年間　山口（啓）助教授　フィリピン　農産物市場構造

③五月、島崎教授・伊予助教授　中国　学術交流、農業友好

④五月　鈴木教授　韓国　酪農物マーケッティングシンポジウム

⑤五月～六月　来米教授、中南米ヨーロッパ　自然農法有機農業

⑥八月　島崎教授・育藤助手　ヨーロッパ諸国　酪農経営

⑦八月　小野田専任講師　カナダ英国法と仏国法の比較法的研究

⑧九月　山口（哲）教授　スリランカ茶プランテーション

以上のように、短期、長期にわたって様々な問題について海外研究が行われている。農業問題、食料問題は広く深く国際的な視野で把握しなければならなくなっているのである。

（伊予東記）

お茶の水駅前の銀座アスターで開かれた懇親会

アメリカに留学して

＝米国有機農業出現の背景＝

助手　大矢祐治

私は一年近くの間、米国のコーネル大学、ニューヨーク大学で、米国の農業労働力や有機農業に関する調査・研究を行う機会を得ました。そこで、米国での新たなる有機農業出現の背景等について、若干ご報告致します。

近年、米国農業の機械化が急速に深まっておりますが、その主な要因は、農産物過剰基調のなかで、生産者物価の低落が続き、さらには化学飼料・農薬等の諸生産資材の高騰により、農業経営が圧迫されているからであります。下層農家は比較的専業農業で収入のウエートが低下してきていても、農外収入で補われるために、その圧迫があっても農業存続が可能であります。また、上層農業機械は、比較的専業農業に多くみられます。

中間層農家は、比較的兼業農業が多いものの、現代農法の問題として、農業収入のウエートが低下してきたことにより、化学肥料や農薬などを使わない有機農業技術の開発を行って、生産コストの低減を図る努力をしています。

また、健康食品販売として、一般農産物価格より高値で販売（カリフォルニア州など）では有機農産物等例が確立している）することにより、農業経営の安定化に成功している農家も多くみられます。

現代農法農家では、多額の負債を抱えている農家が多く、経営の圧迫は農業経営の合理化には限界があり、その圧迫は中間層の農家を最も強く苛酷しています。このため農業経営危機打開策の一つとして有機農法を取り入れている農家がみられます。有機農法農家をみると、自からのアイデアを生かし、物多例が確立している）することにより、農業経営の安定化に成功している農家も多くみられます。

現代農法農家では、多額の負債を抱えている農家が多く、経営の圧迫は農業経営の合理化には限界があり、その圧迫は中間層の農家を最も強く苛酷しています。このため農業経営危機打開策の一つとして有機農法を取り入れている農家がみられます。有機農法農家をみると、自からのアイデアを生かし、物多例が確立している）することにより、農業経営の安定化に成功している農家も多くみられます。

現代農法農家では、多額の負債を抱えている農家が多く、経営の圧迫は農業経営の合理化には限界があり、その圧迫は中間層の農家を最も強く苛酷しています。このため農業経営危機打開策の一つとして有機農法を取り入れている農家がみられます。有機農法農家をみると、自からのアイデアを生かし、物多例が確立している）することにより、農業経営の安定化に成功している農家も多くみられます。

現代農法農家では、多額の負債を抱えている農家が多く、経営の圧迫は農業経営の合理化には限界があり、その圧迫は中間層の農家を最も強く苛酷しています。このため農業経営危機打開策の一つとして有機農法を取り入れている農家がみられます。有機農法農家をみると、自からのアイデアを生かし、物多例が確立している）することにより、農業経営の安定化に成功している農家も多くみられます。

現代農法農家では、多額の負債を

林学科分会

11月に総会を開催

アンケート調査は集計中

本年十一月林学科校友会総会を開催すべく、去る七月八日に各期幹事会を開いて検討いただき、目下その準備に取り組んでおりますので、会員諸兄には多数のご出席をお願い致します。

一昨年秋に開催した総会は、各期委員からご通知する形式で行ないましたが、今次総会には全会員に案内状を発送すべく準備中です。そのためには、会員の住所確認が必要ですので、これを契機に新しく会員名簿を作成することし、各期幹事に依頼いして最新の住所録を集めて参りますので、友人、先・後輩の新たな消息をお知らせ下さい。

岩手県林学科校友会は、毎年定期に集会を開催して同窓の交流を密にしています。四月岩手大学の日本林学会大会の際にも、多数の校友諸兄が、片岡教授らを暖かく迎えてくださいました。紙面をお借りして深謝申し上げます。

△　△

学科の動きでは、「林業の将来展望と林学教育のあり方」なるテーマのもとにアンケート調査を実施し、転機期にある林業と林学教育の将来方向を策定するため、基礎資料を取りまとめております。アンケートの対象には、在学生、今回の高校、森林組合、木材協同組合、関東地方の関量・造園会社等に協力をお願いして多数の回答を得ました。現在この集計作業をすすめておりますが、今年度中には何らかの回答を出す計画です。

この課題で、現場の声を座取べく野村教授、佐々木・本江助教授は、名古屋・奈良の木材業界、吉野高等学校を訪問し、聞録をして、アンケート分析を深めることを試みました。ご協力下さいました校友諸兄に感謝します。

五十五年から毎年発行している機関誌「年輪」は、本江助教授の編集、片岡・野村教授の二努力により、第四号が発行されました。大変好評でもあり、増刷して総会時に会員にお配りする所存ホホボード工場を教員二名と学生二十三名で見学。林業経営学コースは、名古屋・鳥羽・新宮の木材工場、山林経営者を教員二名、学生十二名で見学しました。この面でも、校友諸兄のご協力を得て良好な成果を挙げております。

ご一何年も海外旅行を欠かさない加藤教授、片岡教授、本江助教授、農水・海老原・鈴木助手と学生四名を伴なって、八月三日から七日にマレーシアのキナバル山国立公園を訪れました。加藤先生は途中で登頂を断念されましたが、他の諸氏は標高四一〇〇メートルの頂上を制覇して無事帰国しました。この模様を加藤先生の記述をもとに抜粋してみます。

夏休みを利用しての集中実習は今年も水上演習林で、造林学実習、森林生態学実習、測量学実習、測樹学実習、森林経理学実習が行われました。また、各地への研修旅行が恒例的に実施されています。例えば、木材工学コースでは、今年は同町・三菱製紙、米沢・東北れた文献から抜粋してみます。

山道は険しいが珍しい植物が…

キナバル山登頂記（抜粋）

キナバル山登頂の加藤先生らの一行

八月二日早朝、一行二十五名とともに、遠く南方ボルネオ・サバ州の首都コタ・キナバルを目ざしてとび立った。コタ・キナバルに一泊し、翌朝、朝の中をキナバル国立公園（北方三キロ）を目ざして、マイクロバスで出かけた。これからいよいよキナバル山（四一〇二メートル）登頂とともに、周辺の植物を調査するという仕事と取り組んだのである。キナバル山はボルネオの北部サバ州の北端、赤道を隔たること僅かに六七〇キロ、北緯六度、東経二六・五度に位する高山であるが、火山ではなくて、地殻の変動によって出来た山といわれる。

キナバル国立公園のロッジに一泊し、五日早朝、ロッジを出発、山頂に向った。私にとっては、はじめてのボルネオの植物の研究であった。

山道はちゃんと人工的に造ってはあるのだが、とにかく暑くあるし、一時間ほどで、ようやくさまざまな体型地点に到達した。これでやっと四分の一来たのだという。山の天気は変り易く、しきりにガスが襲ってくる。そこを出発して登って行くうちに、時に晴れて、キナバルはその絵画な姿をあらわし、時にはまた、全く姿の中にかくれて見えなくなってしまう。ぼつぼつと雨が降ってくる。一生懸命足を運んで登るのだが、遅いよいよ険しい。ゆけどもゆけども胸突き八丁である。山歩きに馴れた人々にとっても、これは相当な難路であったろう。

第二の休憩地点である。四阿（あずまや）のところを通り抜け進んで行くうちに、とうとう本格的な大粒の雨となって来た。

南方独特のスコール状豪雨にあう。キナバルの山は大地をひっくり返すような大雨だ。ようやく抜き終りきって、ちょっとした並地に着いた。「ありがたや、小屋があった」とほっとやっとの思いでたどり着く。中はまっしぐら調員。外まで何十人も溢れているのだから仕方がない。とにかくしっとしている。ついに、私はこの山小屋にふみ出すことを決心した。結局、三人が手足になかったこの山小屋で宿泊することになった。

他の人々は、雨が降りになったのを見て、次々と出かけて行ったが、日暮れとともに山小屋は急にしんしんと冷え始めた。

―中略―

（注・こうして加藤先生と紀州の老夫二人が疲労もないままに山小屋で、地元の青年が黙って加えてくれた薪によって暖をとりながら夜を明かすのである）

山は夜の間にすっかり晴れて、キナバルの美しい姿が、私たちの前つた山小屋の上に照々とそびえ立っており、昨夜の雨が長き数百日の雨となって、山腹の斜面を白く流れ落ちていた。その景観は何ともいえず、すばらしかった。

キナバル国立公園のロッジは、名古屋・鳥羽・新宮の木材工場、山林経営者を教員二名、学生十二名で見学しました。この面でも、校友諸兄のご協力を得て良好な成果を挙げております。

ご一何年も海外旅行を欠かさない加藤教授、片岡教授、本江助教授、農水・海老原・鈴木助手と学生四名を伴なって、八月三日から七日にマレーシアのキナバル山国立公園を訪れました。加藤先生は途中で登頂を断念されましたが、他の諸氏は標高四一〇〇メートルの頂上を制覇して無事帰国しました。この模様を加藤先生の記述をもとに抜粋してみます。

藤沢の実習室は今年度着工

四学科の演習林転に伴なって本学科の研究室・移動や名称変更があり、整備も完了しましたのでお知らせ致します。二号館四階全部と三階に多くの研究室が配置されていますが、六号館に林産化学（中塚教授）研究室、藤沢に苗畑・樹木園、機械実習室、木材工学実習室があります。この藤沢の実習室については、新規の建設計画のご通知のは感謝の、今年度着工の運びとなりました。新実習室の詳細は後日お知らせすることし、ワン・フロア増加になった二号館の配置状況を記します。四階には、造林学研究室（片岡教授・本江助教授）、森林工学研究室（第一・二研究室（石塚専任講師）、第二・鳥田教授）、木材工学研究室（浜本助教授）、測量林事務室（井上専任講師）、資料室（後藤助手）。

三階には、樹木生理学研究室（増田助教授）、森林測定学研究室（佐々木助教授）、林業経済学研究室（野村教授、藤沢専任講師）、樹木学研究室（加藤教授）、風致造園学研究室（片岡教授）、製図（観代副手）、野生動物研究室（日塔教授）、という構成・配置です。

教員の動向について述べますと、鈴木助教授は、大学の海外派遣研究員として今年八月より一年間、西ドイツへ留学しております。先日の帰りでは、現在ゲーチ協会の語学学校に通っており、十月よりローゼンハイム大学にて研究に従事するとのことです。

藤沢では、鳥野さんが海老原副手の協力を得て苗畑と樹木園の管理・厚生に、健在です。木工関習林の坂本（慶）さんも大へんに元気で、演習林の保護・管理に亟水助手と従事しております。

森田先生は、昭和三十七年に本学教授として着任され、林業経営学多くの科目を担当され、演習林を主として八雲演習林を公団造林に設定する等、演習林の健全な運営の基礎固めに多大の尽力をされ、昨年後も非常勤講師として教鞭をとるとのことでしたが、昨年度で現役により退任されました。長年の御苦労に対して心より感謝を申し上げます。

（塩沢南治郎）

桜水会

水産学科教員の陣容もほぼ充実し、学生指導に、研究に力をそそいでいます。研究室も長い間続く、学生、教員とも不便をしのんで来ましたが、各研究室（水産工学を除く）が四学科（獣医・畜産・農学・農業工学科）の藤沢校舎移転に伴ない、昭和五十五年度以前の学生には考えられない広さです。

研究室紹介

☆魚類学研究室

日比谷　京授（魚類学第一＝八号館三階）、廣瀬一美助教授（魚類学第二＝八号館三階）、朝比奈潤助手（魚類学機器室＝七号館三階）。

研究室のおもな テーマは魚介類の生殖生理に関する研究・水産動物の細胞遺伝学的研究・魚介類の疾病に関する研究・薬品試験等研究範囲も広く、しかも変地味な研究分野であります。

日比谷　京授は日本水産学会会長としてその研究と人格の高さが評価され、研究室の教員・学生ともども心強く感じている次第であります。

☆水産生物化学研究室

西田英一郎（水産生物化学第一＝八号館二階）、内田直行専任講師（水産生物化学第二＝八号館三階）、梁山貴子助手（水産生物化学第一）。

☆海洋・資源学研究室

門田定美教授（海洋・資源学第一＝新三号館四階）、広海十郎助手（海洋・資源学機器室＝新三号館四階）、東　禎三教授（海洋・資源学第二機器室＝新三号館三階）、吉原潤専任講師（資源学第二＝旧三号館三階）海洋・資源学研究室は研究室名が二分されているように、教員構成も他の研究室とは趣を異にして、教授が二名のかたちをとっております。

☆水産増殖学研究室

出口吉昭教授（水産増殖学第一＝八号館一階）、小橋二夫専任講師（水産増殖学第二＝八号館一階）、杉田治一助手（水産増殖学機器室＝八号館一階）。

大竹茂夫教授（水産利用学第一＝新三号館地下二階）、智月　篤助教授（水産利用学第二＝新三号館地下二階）、松宮政也助手（水産利用学第一）。

☆漁業生産学研究室

浜田秀虎助教授（漁業生産学第一＝八号館二階）、金澤和夫専任講師（漁業生産学第二＝八号館二階）、長谷川英一助手（漁業生産学機器室＝八号館二階）。

☆水産工学研究室

四之宮　博助教授、鵜村和彦専任講師、寺内　誠専任講師（水産工学＝新三号館四階）。

以上のように、学科の研究室が本館のあるキャンパスとも、八号館に分散しているため、多少の不便さはあるものの、コミュニケーションの場としては成功を上げているようにお受けられます。

＜教育関係＞

新カリキュラムに編成されて今年度でちょうど四年目に入り、一通り学科修得の最後の年であります。特に各学科目のうち、各研究室（水産工学を除く）で講師を決定する方法で行なっております。特別講義から実験味があります。

今年度の講師の講師と演題を紹介しますと、六月二日＝畑井喜雄氏（日本獣医学会）＝魚類の寄生症について、六月八日＝木村　茂氏（東京水産大学）＝水産動物のコラーゲン、六月十五日＝安達六郎氏（三重大学）＝赤潮プランクトン、六月二十二日＝日野明徳氏（東京大学）＝クオミズツボワムシの生態、六月二十九日＝鈴木信弘氏（東海区水研）＝魚肉蛋白質の新しい利用法、七月六日＝細田順二氏（東京水産大学）＝廃棄オキアミ漁業の開発の現状と将来性、七月十九日＝古田勝美氏（東京大学）＝魚類の性成熟過程、十月二十六日＝山本宗氏（水産ねり製品技術研究会）＝水産ねり製品の現状と技術的課題、十一月九日＝渡辺洋氏（日本水産資源開発センター）＝未利用資源の開発、十一月十六日＝高島昭夫氏（東京大学）＝水産増殖学とその人為調節、十二月二十日＝池田宗氏（東京水産大学）＝生化学的手法による魚の健康診断、十二月二日＝能勢幸雄氏＝アイスランドの漁業と資源研究　などが予定されております。

以上のように、現在海離中の多彩な講師による授業で学生ばかりでなく、教員にとっても大いに勉強になり、みんなが楽しみにしております。

また、特別講義の他、水産学実習も各研究室で指導することになり、四年次学生である卒学生を対象に行われております。学生数も少なく、比較的研究室の特色が生かせるカリキュラムになっております。

一年次学生には、今年度のオリエンテーションとして昭和五十八年四月十二日に神奈川県水産試験場、京急油壺マリンパークの見学を行い、雨にもかかわらず出席学生三七名で楽しく水産生態の観察も出来、レポート提出により、単なる観光でなく、大いにオリエンテーションとしての効果を上げ得たことは、今後の学生活にプラスになると思われます。

＜その他＞

門田定美教授は創年度より学部の教育担当の一つである教務担当として、学部の仕事の担当者の一人として農獣医学部の発展のために努力され、学科では庶務係として、学科のまとめ役もやらされ、その忙しさは想像を絶するものがあり、健康には留意され、十分ご御ご自愛されることを祈るのみであります。

大竹茂夫教授は、昭和五十九年度日本大学農獣医学部が番校のため、日本水産学会春季大会の大会委員長として、準備委員会も発足し、会が盛大に行われるよう一致団結して成功させたいものであります。

東　禎三教授の出版記念会が、ニューオータニで盛大に行われ、日本大学理事長をはじめ多数の卒業生が出席し、心からお喜び申し上げた。本は「三浦半島の海藻一節目」である。水産ねり製品の現状と技術的課題、十一月九日＝渡辺洋氏（日本水産資源開発センター）＝未利用資源の開発、十一月十六日＝高島昭夫氏（東京大学）＝水産増殖学とその人為調節

食品工学会

会員の皆様におかれましては、ますますご健でのことと拝察いたします。昨年十月よりのニュースをお知らせします。

▼斎藤義蔵教授急逝される

食品工学分野最古参のお一人であります斎藤義蔵教授が、昭和五十七年十月二十六日午前一時十三分脳出血のため、入院先の日大板橋病院でご逝去されました。享年六十九歳でした。

通夜は十月二十六日川崎の二百畳で、告別式は二十七日正午より川崎市高津区の善長寺で行われました。告別式には、先生のご活躍とお人柄を偲ぶように多数の参列者があり、久木田農獣医学部長の弔辞をはじめ数多くの弔辞が読み上げられ、涙がなかなかに取り行われました。

ありし日の斎藤義蔵教授

先生は、昭和十年東京帝等獣医学校卒業後、一時滋賀県に奉職されましたが、昭和十三年同校に戻られ、講師、助教授、教授を経て昭和二十六年同校の日本大学への合併に伴い、日本大学農獣医学部に勤務されました。昭和二十七年の食品製造工学科（食品工学科の前身）の創設には特に尽されて、創設と同時に主任教授の要職を務められました。また昭和五十年から五十五年までは、日本大学付属鶴ケ丘高等学校長と学部教授を兼任され、多忙な日々を過ごされておられました。

今後もご活躍が期待されていただけに、このご逝去は非常に惜しまれてなりません。先生のご冥福をお祈り申し上げます。

▼総会と懇親会が開催される

昭和五十七年度食品工学会の総会が、昭和五十七年十一月六日午後五時から「軒茶屋「銀座スター会館」において開催されました。

総会は、野田副会長の挨拶に続き議案審議に入り、青井事務局長より第一号議案として昭和五十六年度食品工学会の一般経過報告の説明がありました。

第一号議案は、昭和五十六年度の会計決算報告が行われ、事務局長の説明、会計会計監査まりの監査報告を受け後、承認され、また第三号議案は、昭和五十七年度の会計予算案が審議の上、同じく承認されました。（別表参照）

第四号議案は、食品工学会設立二十年記念事業のための準備委員会の結成が提案され、満場一致で承認されました。

懇親会は、六時から引き続き向会場で、一期生の近貴氏、七期生の宗井氏を司会として開催されました。

懇親会では、副会長の挨拶、露木教授のご挨拶の後、斎藤先生のご冥福を悔み、一分間の黙とうが捧げられました。また久田学部長をはじめ佐藤学部校友会長ほか各分会の役員の方々からご祝辞をいただきました。

会合は、なごやかな歓談のうちに二十時閉会となりました。

▼教員人事について

食品保蔵学研究室の春田三佐夫教授が、本年四月食品工学科主任に任命されました。学科の発展のためにますますのご活躍を期待いたします。なお、露木英男教授は大学院農学研究科食品工学専攻主任を担当しております。

食品製造学研究室の木村貫司専任講師と吉岡化学工学研究室の屋敷七郎専任講師が、それぞれ助教授に昇格されました。心から祝賀び申し上げます。

食品製造学研究室に、本年四月から大武由之教授が就任されました。先生は昭和十七年東京帝国大学農学部を卒業後、同大学の助手を務められて、昭和二十六年宇都宮大学に移られ、本年定年退官されました。その間、昭和三十七年には「動物性脂肪の酸化変質と着色化に関する化学的研究」の課題で農学博士の学位を取得され、また昭和五十五年には、宇都宮大学農学部長に就任されております。今後、先生には、食品製造工学Ⅱ、食品製造工学実験・実習Ⅱを担当していただくとともに、卒業論文のご指導をいただくことになっております。伝統ある研究室だけに、今後の発展が期待されます。

土岐理恵子副手

竹永章生助手

大武由之教授

新任の先生がた

食品製造工学研究室の松本文夫教授が、八月六日付をもって定年退職されました。先生は昭和五十二年に島大学水産学部を定年退官後、食品工学科に就任され、以来食品製造工学Ⅰ、包装論、食品製造工学実験及び実習Ⅱなどを担当されてこられました。また研究室の学生の卒業論文にも熱心にご指導いただき、本年三月までに百人以上の学生がご指導を受けました。そのため、松本先生には、今後も非常勤講師としてご指導いただくことになっております。

食品製造工学研究室の惟木剛美助手が三月三十一日付で退職され、代わりに本年三月同研究室卒業の土岐理恵子さんが副手として採用されました。

食品理化学研究室に、本年食品工学専攻博士前期課程を修了した竹永章生氏が助手として採用されました。先生は食品工学科の卒業生（第十六期生）でもあり、今後のご活躍が期待されます。なお、同研究室の解アトモ子副手は、食品分析学研究室に移られました。

梅沢専任講師が食品製造学研究室から食品保蔵学第三研究室に移られました。研究室は新二号館二階です。

▼事務局から

事務局では、食品工学会設立二十周年を記念して、来年度記念事業を計画しております。例えば記念誌（会員名簿等を主体としたもの）などの発行を予定しております。そのため現住所、勤務先、姓名などを変更されましたら、至急事務局までご連絡ください。その他会員諸氏には、記念事業についていろいろご連絡やご協力を願うことがあると思いますが、よろしくお願いいたします。

（千野　誠）

昭和56年度決算報告書

収入の部

科　目	予算額	決算額	比較増減(△)
(Ⅰ)前年度繰越金	323,601	323,601	0
(Ⅱ)入　会　金	489,000	489,000	0
(Ⅲ)会　費	676,000	676,000	0
(Ⅳ)雑　収　入	150,000	179,123	29,123
収入合計	1,638,601	1,667,724	29,123

支出の部

科　目	予算額	決算額	比較増減(△)
(Ⅰ)経　常　費	580,000	426,770	△153,230
1)事務局費	100,000	68,960	△ 31,040
2)通　信　費	200,000	176,450	△ 23,550
3)会　合　費	100,000	54,410	△ 45,590
4)交　際　費	30,000	8,000	△ 22,000
5)記念品費	150,000	118,950	△ 31,050
(Ⅱ)事　業　費	850,000	733,000	△117,000
1)事業費積立金	700,000	700,000	0
2)総会補助費	150,000	33,000	△117,000
(Ⅲ)予　備　費	208,601	30,000	△178,601
(Ⅳ)次年度繰越金		477,954	477,954
支出合計	1,638,601	1,667,724	29,123

昭和57年度　予算書

収入の部

科　目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減(△)
(Ⅰ)前年度繰越金	323,601	477,954	154,353
(Ⅱ)入　会　金	489,000	464,500	△ 24,500
(Ⅲ)会　費	676,000	838,000	162,000
(Ⅳ)雑　収　入	150,000	170,000	20,000
収入合計	1,638,601	1,950,454	311,853

支出の部

科　目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減(△)
(Ⅰ)経　常　費	580,000	670,000	90,000
1)事務局費	100,000	100,000	0
2)通　信　費	200,000	250,000	50,000
3)会　合　費	100,000	100,000	0
4)交　際　費	30,000	50,000	20,000
5)記念品費	150,000	170,000	20,000
(Ⅱ)事　業　費	850,000	750,000	△ 100,000
1)事業費積立金	700,000	500,000	△ 200,000
2)総会補助費	150,000	250,000	100,000
(Ⅲ)予　備　費	208,601	530,454	321,853
支出合計	1,638,601	1,950,454	311,853

拓友会

活発な活動を展開

コンペや記念品贈呈など

昨年十月より今年九月までの一年間における拓友会の動向についてお知らせします。

▼ゴルフ・コンペ

拓友会では会員相互の親睦を深める事業の一環として、近年ゴルフ・コンペを開催しています。毎年一～二回ですが同好者も多く楽しい一日となっています。今年は昨年十月初旬に拓植学科の先生数名も参加して多摩CCで行なわれましたが、大会実行委員長の本会副会長木村正芳氏が優勝カップを持ち帰りました。

▼台湾で拓友集う

拓友会には昭和二十五年卒業の第一期生から昭和二十年卒業の第七期生までに台湾出身の拓友がかなりおりますが、その方々が昨年十二月九日に台湾の台北において卒業以来の会を開き、拓友会から工藤副間、長谷川事務局長、楠文講師の三名が出席した。

当日は四十年ぶりの思い出話に感激し、また卒業後の苦労ばなを語り合っていつまでもつきぬ楽しい一日でありました。なお、この詳細については「拓友会報」第八号に掲載しました。ご覧下さい。

▼工藤副間に記念品贈呈

昨年は昭和二十二年に拓友会を結成してから三十五周年にあたりました。この間、初代会長として現在の拓植学科の新設をはじめ、拓友会の発展に多大のご尽力をいただいた本会顧問工藤裕久氏の功績に感謝し、記念品を贈っています。今年も二百余名の新卒業生に拓友会のネームタグ入れた、デンタルつき高級ボールペンを贈り、前途を祝福しました。

▼58年度総会・懇親会

今年五月二十七日に京王プラザホテルにおいて総会・懇親会を開催しました。総会は経過報告、予算決算、事業計画等の議題を慎重審議の末終了し、引きつづき懇親会に移行。懇親会では久木田学部長、佐藤獣医学部校友会長、各分会長、また諸氏、錦織同元主任教授、拓植学科教員の各来賓を囲み、多数の拓友の参加を得て楽しい一夕を過ごしました。

▼拓植協議会開催

拓友会では拓植学科の発展に寄与すべく、学科設立以来、役員歴名と拓植学科教授による意見交換の機関として拓植協議会を設け年二回定期的に開催しています。今年度は第一回を五月十七日に学部内で開き、有意義な意見交換、懇談が行なわれました。

新入生の研修旅行

セミナーハウスで実施

拓植学科では、毎年新入生を対象に、四年間の大学生活のオリエンテーション・ガイダンスに併せて、教職員、上級生、新入生相互の親睦を目的に、軽井沢方面への一泊研修旅行を実施してきた。

今年は、去る五月十五日、十六日、場所を箱根方面に移し、宿泊・室内研修には、八王子の大学セミナーハウスを利用した。

近距離となったので、時間が有効に利用できた。上級生のリーダーシップで、新入生の自己紹介、教員の紹介、学科の特徴と教育の目標、カリキュラムの詳細説明、日本経済の現状と発展途上国の農業開発と協力の映画上映等を実施した。

新入生のほぼ全員が出席でき、「参加して今後の方向性がはっきりした」との感想が多く、成功裏に無事終了することができた。

写真は同研修風景

他にさきがけて

パソコン実習

本年度より、拓植学科一年次は東京校舎講義を行なうことになり、二年次、三年次に引続いた学生が同時に東京校舎に姿を見せ、四学科移転後、久々にキャンパスにも活気が戻ってきたようです。

この二年次では貿易・経営コースに拓植実習と開発・経営コースに開場実習とそれぞれ必修科目があります。拓植実習では幅先がけて、昨年よりパソコン実習を取り入れ、グループ学習を行なってきましたが、本年九月は、旧三二実験室が、コンピューター実習室として生まれ変わり、標準のPタイル張りで、移動コンセント、映像設備などが設置され、最新のパソコンも導入されました。

学科新設以来、二年目を経て、海外で活躍するOBも多い。

拓友会報の「世界のかけ橋」欄で、毎号紹介を続けているが、ここでは、最近の状況がわかっているものを紹介する。

拓植OBの活躍する分野は、海外協力と商社等の貿易・開発部門が多い。

日本青年海外協力隊員として、現在派遣されているOBを挙げると次のとおりである。

染谷孝夫氏（五十六年卒）ホンジュラス野菜、森下昌治氏（五十六年卒）ケニア、滝口芳郎氏（五十六年卒）バングラディシュ、中川　隆志氏（四十九年卒）バングラディシュ専門家派遣、関塚英雄氏（五十七年卒）スリランカ、の諸氏がいる。

"オイスカ"からは、松本俊雅氏（五十六年卒）がマレーシア・サバ州で森林の指導に当っている。

さらに、一度派遣国から帰国して専門家としての研修を受け、これから派遣を予定されている富高元徳氏（四十九年卒、フィリピン・フィリピン大学で修士号取得）、大原浩之氏（五十三年卒、オイスカ隊員・専門研修中）等がいる。

一方、商社・メーカー関係では、コンニャク開発で音秀雄氏（四十五年卒）、下重

発展途上国で活躍

ネパール人と結婚し、現地の農業開発プロジェクトで活躍中の村上いづみさん（五十六年卒）がいる。

今後もますます拓植学科OBの特徴を生かして、社会に、海外に活躍することが望まれる。

（長谷川勝男）

台湾で40年ぶりに再会

韓国・台湾の校友達と交流

楠文、井上同専任講師は八三年三月韓国・台湾両国を訪問、また井上専任講師は再度四月に韓国訪問の機会を得た。その際、海外校友諸氏に会うことが出来たので、ここに報告する。

二度にわたる韓国訪問では次の方々に対会いした。金東貴氏（二期）、梁啓氏（前韓国中央女子中学校校長四期）、曺偉敏氏（前義工業専門大学長・日本大学第二期）、李源浩氏（元ソウル農科大学教授・五期）、李殷鎬氏（大韓火災海上保険・五期）、李珍華氏（五期）以上である。

台湾では、陳国氏（四十八年卒）、自動車会社から石川孝氏（四十六年卒）が活躍中である。多田準一氏（四十八年卒）が東南アジアやアフリカを舞台に活躍している。

ここに掲げたものは、ほんの一例に過ぎないが、現在もアメリカ、南米等での実習、研修中の在学生・OBも多い。

なお、異色な存在としては、農業開発プロジェクトで活躍中の村上いづみさん（五十六年卒）がいる。

今後もますます拓植学科OBの特徴を生かして、社会に、海外に活躍することが望まれる。

（長谷川勝男）

むつあい会

実験実習室が完成

池田教授は農業科長に

短大農業科卒業の校友の皆さんお元気ですか。さわやかな秋を迎え、ますます健勝で活躍のことと存じます。短大農業科も発足以来二十四年を経過し、去る三月には一三五名の卒業生を送り校友の数も六四名に達しました。一方、学生数も次第に増加して現在三四名が在籍し、それぞれ園芸コース（一年次一二名、二年次一〇名）と造園緑地コース（一年次六三名、二年次五七名）に分れ、勉学しております。

この四月に新に造園学の池田二郎教授が農業科長に就任されました。また生物学の佐藤昇助教授が教授に昇格され、両教授とも元気で活躍されております。教員数も二名増し、学生とともに日夜努力致しております。

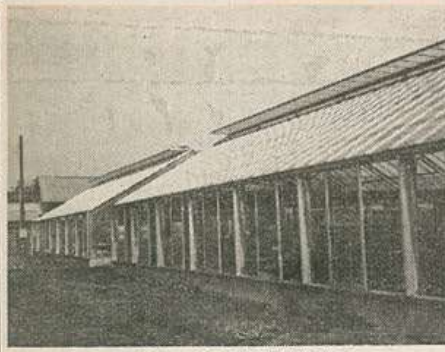
教育研究の施設につきましてはこれまで、短大農業科には学生の教育育成用の圃場がないために、実験材料の確保のうえで大変に左右されて期日に材料が得られなかったり苦労しましたが、七月には実験実習用のガラス室（一棟一六五平方メートル）二棟が木造校舎（日七号館）南側に完成しました。また一二aの研究圃場も隣接しているのには日中農業友好団に参加し、二週間ほど中国農業の研究機関との交流を深め、大変によい勉強をして帰えりました。今後を期待したいと思います。

卒業生の就職と進路状況について。三月には一三五名の卒業生を送りましたが、そのうち就職したもの二七名（二〇％）、自営四六名（三四％）で、進学者が多いのが特徴的ですが、自営する者も多く、その大部分が農業従事者となっています。

また就職状況は公務員や農協などの農業団体、種苗会社、青果市場、農業資材関連会社、造園会社その他となっております。出身地に帰って就職するものも多く、農協などに勤務する場合など、農業改良普及員の資格が最低必要で、資格試験には毎年一〇名前後が合格しております。短大卒の実験資格は、決則の改正により本年度からなので若干残念です。また農業実習生として後輩に、二カ年間研修を受け帰国後自営を希望している学生もおり、将来が楽しみです。

最後になりましたが「むつあい会」の総会は毎年三月に開催しており、五九年度は三月七日（土）に決定しております。これまで参加者は古い期の方が多い傾向でしたが、最近は県内在住の若い校友の方々の参加も多くなりました。校友との交流を深める絶好の機会でもありますので、多数のご来校を期待し校友の皆様のご発展と、健闘をお祈りします。

（斉藤忠雄）



7月に竣工した実験実習用ガラス室

昭和57年度 決算報告

（収入の部）　昭和57年1月1日～12月31日

科目	予算額	決算額	増△減	備考
繰越金	443,582	443,582	0	
前年分会費	600,000	565,000	△ 35,000	1人×15,000円 111人×5,000円
交付金	380,000	429,000	49,000	143人×3,000円
雑収入	16,418	121,951	105,533	普通預金利息、総会残
合計	1,420,000	1,559,533	139,533	

（支出の部）

科目	予算額	決算額	増△減	備考
総会費	620,000	592,086	△ 27,914	
(イ)事務費	50,000	21,635	△ 28,365	事務用品、印刷
(ロ)人件費	100,000	82,451	△ 17,549	アルバイト、事務局員整理手当
(ハ)旅費	50,000	57,310	7,310	役員会、理事会、事務局会、協議費
(ニ)通信費	210,000	238,890	28,890	役員会、総会施案内、会報発送費
(ホ)会議費	150,000	123,820	△ 26,180	役員会
(ヘ)交際費	60,000	68,000	8,000	祝金品、弔金品、いっしょうか、慶弔金、表彰工事金、他
事業費	600,000	561,810	△ 38,190	
(イ)総会費	280,000	280,000	0	特別会計
(ロ)名簿作成費	20,000	3,500	△ 16,500	新入会員名簿
(ハ)会報費	200,000	136,910	△ 63,090	
(ニ)協力費	100,000	81,400	△ 18,600	卒業記念品の作成、短大収穫祭
積立金	100,000	100,000	0	
予備費	100,000	0	△ 100,000	
小計	1,420,000	1,193,896	△ 226,104	
繰越金	0	365,637	365,637	
合計	1,420,000	1,559,533	139,533	

（総会費の部）

科目	収入	支出	残高	備考
56年度 繰越金	1,473,997	0	1,473,997	
57年度 積立金	100,000	0	1,573,997	
57年度 利息	102,357	0	1,676,354	
合計	1,676,354	0	1,676,354	

昭和58年度 予算

（収入の部）

科目	56年度予算額	57年度決算額	増△減	備考
繰越金	365,637	443,582	△ 77,945	
前年分会費	600,000	565,000	35,000	120人×5,000円
交付金	600,000	429,000	171,000	120人×3,000円
雑収入	6,363	121,951	△ 115,588	
合計	1,570,000	1,559,533	10,467	

（支出の部）

科目	56年度予算額	57年度決算額	増△減	備考
総会費	620,000	592,086	27,914	
(イ)事務費	40,000	21,635	18,365	事務用品、印刷
(ロ)人件費	100,000	82,451	17,549	アルバイト、事務局員整理手当
(ハ)旅費	60,000	57,310	2,690	役員会、理事会他
(ニ)通信費	210,000	238,890	△ 28,890	役員会、総会施案内
(ホ)会議費	150,000	123,820	26,180	役員会他
(ヘ)交際費	70,000	68,000	2,000	お祝い、香典
事業費	600,000	561,810	38,190	
(イ)総会費	250,000	280,000	△ 30,000	特別会計
(ロ)名簿作成費	20,000	3,500	16,500	
(ハ)会報費	230,000	136,910	93,090	
(ニ)協力費	100,000	81,400	18,600	卒業記念品の作成、収穫祭
積立金	200,000	100,000	100,000	
予備費	140,000	0	140,000	
小計	1,570,000	1,193,896	376,104	
繰越金	0	365,637	△ 365,637	
合計	1,570,000	1,559,533	10,467	

（総会費の部）

科目	収入	科目	支出	備考
小計	200,000	前金	229,320	
前年度繰越金（新潟支部分、地区）	30,000	コンパニオン	53,100	
当日会費	70,000	当日会費	114,580	
合計	300,000	合計	300,000	

実習用モデル日本庭園

異色の活動を展開

大阪支部　若手の不参加に苦労

例年になく暑い夏が過ぎ指標ホット一息ついておられる事と思います。年月の経過は本当に早く57年の校友会報告を申上げたように思っております。校友の各位はお忙殺の経済下に各業界の各方面に奮迅の活躍をしておられる事と拝察致します。さて、大阪校友会も年々校友のご協力と輪を得て、いろいろと企画し、日頃月夢と教養に運動に娯楽にと各日本大学校友会に水会とともに異色の活動を致しております。本年は特に各学科ごとに専任の担当責任者をもうけ別表の計画により各々と事業をこなしております。二月より既に八月まで計画通り順調に推移し、後半に向け充実した予定を消化致します。

校友の皆様は、会場を横浜中華街に移し、十月の夜に総会を開催することになりました。

本年の総会は以前にも増して、盛大にして、ご出席の校友に、秋の一夜を楽しく過して頂きたく、事務局員一同張切って準備を進め、皆様をお待ちしております。

記

会場　横浜中華街　華正楼本館
期日　十月十五日（土）
総会　十七時より
懇親会　十八時より

農獣医部会の総会

神奈川支部　15日に横浜中華街で

神奈川県内にお住いの校友の皆様、お元気ですか。秋になりますと年に一度の農獣医部会の総会・懇親会のシーズンになります。

昨年は創立五周年にあたり、農獣医学部の農学・獣医学・畜産学・農業工学の4学科が藤沢キャンパスに移転し、立派な食品研究棟も完成したので、校友の皆様に多くの発展した藤沢キャンパスを一覧頂いた後に総会を行う予定で、十月十一日（最り替休日）に開催致しましたが、あいにく当日は雨のため、校舎の内覧は取り止め、総会は第一会議室で、懇親会は食堂三階の大ホールで開催致しました。残念でしたが、懇親会には某賓の方々と校友の皆様が二三〇名ご出席頂き、各テーブルでは、横様、お元気ですか。秋になりますと年に一度の農獣医部会の総会・懇親会のシーズンになります。

昨年は創立五周年にあたり、農獣医学部の農学・獣医学・畜産学・農業工学の4学科が藤沢キャンパスに移転し、立派な食品研究棟も完成したので、校友の皆様に多くの発展した藤沢キャンパスを一覧頂いた後に総会を行う予定で、十月十一日（最り替休日）に開催致しましたが、あいにく当日は雨のため、校舎の内覧は取り止め、総会は第一会議室で、懇親会は食堂三階の大ホールで開催致しました。残念でしたが、某賓の方々と校友の皆様が二三〇名誤から出張したコンパニオンが運ぶ酒・料理に舌鼓を打ち、酒を汲み交し、時間が経つのを忘れて、旧交を温めました。

今年は、会場を横浜中華街に移し、十月日の夜に総会を開催することになりました。

本年の総会は以前にも増して、盛大にして、ご出席の校友に、秋の一夜を楽しく過して頂きたく、事務局員一同張切って準備を進め、皆様をお待ちしております。

記

会場　横浜中華街　華正楼本館
期日　十月十五日（土）
総会　十七時より
懇親会　十八時より

日大農獣医大阪校友会58年度行事予定表

1月	14日	新年互礼会・カニ料理 於 森ノ宮西村	桂馬著 水沢氏 熊野氏	
2月		正副会長会	桂氏	
3月	4日	日大出身力士激励会・於 心斎橋 同月28日花・野川・花嵐・小谷関（オール日大大阪校友会と合同）	桂25年 東氏	
	16日	衆議院議員（大阪5区）中山正暉氏時局講演会 於 日大大阪校友会館7F	桂11年 大田氏	
	29日	チャンコ鍋講習会（花嵐関を囲む会）	桂44年 武田氏	
4月	29日	農獣医ゴルフ大会 於 名張カントリー	桂23年 寺田氏	
5月	28日	バスツアー夜の京都（京料理と花街めぐり）	桂45年 中川氏	
7月	20日 23日	理事会 農獣医校友会総会 大阪文部より 倉田氏、中川氏を東京へ派遣		
8月		P L花火大会（納涼ゆかた会）	桂25年 倉田氏	
10月	2日	奈良の鹿の角切り見物（講習集会行事に参加）奈良博物館・万葉植物園見学	桂28年 倉田氏	
11月		林業会一泊旅行 場所日時未定	桂40年 出村氏	
12月	11日	甲子園ボウル観戦（オール日大大阪校友会と合同）	桂26年 山田氏	
	15日	理事会（行事計画・予算）忘年会	桂27年 山本氏	

日本大学農獣医学部・短期大学部農業科・案内

大学院　農学研究科　農学・農芸化学・畜産学・農業経済学・水産学・農業工学・食品工学の各専攻
　　獣医学研究科　獣医学専攻
大学　農・農芸化・獣医・畜産・食品経済・林・水産・農業工・食品工・拓植の各学科
短期大学部　農業科

昭和59年度入試科目・期日

学部	昼・夜	学科	入試期日	入試科目
農獣医学部	昼	獣医・農業工・食品工	2月17日(金)	数学—数学Ⅰ 理科—物理Ⅰ，化学Ⅰ，生物Ⅰの3科目から1科目選択 外国語—英語B
		農学・農芸化学・畜産・林学・水産	2月20日(月)	国語・数学「現代国語・古典Ⅰ乙」，数学Ⅰの2科目から1科目選択 理科—物理Ⅰ，化学Ⅰ，生物Ⅰの3科目から1科目選択 外国語—英語B
		食品経済	2月20日(月)	国語—現代国語・古典Ⅰ乙 社会—政治経済，日本史，地理Bの3科目から1科目選択 外国語—英語B
		拓植	2月17日(金)	
短期大学部	昼	農業科	3月8日(木)	国語・数学「現代国語・古典Ⅰ乙」，数学Ⅰの2科目から1科目選択 理科—物理Ⅰ，化学Ⅰ，生物Ⅰの3科目から1科目選択 外国語—英語B

授業校舎
- 農学科，獣医学科，畜産学科，農業工学科の4学科は藤沢校舎。
- 農芸化学科，食品経済学科，林学科，水産学科，食品工学科，拓植学科の6学科は，1年次だけ藤沢校舎。2年次より東京校舎。
- 短期大学部農業科は藤沢校舎。

★入試関係についての照会は，
（〒102）東京都千代田区九段南4-8-24
日本大学入試事務室へ